

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	61	実施計画番号	118	
事務事業名	十和田湖観光拠点施設整備事業		事業開始年度	24
担当課名	観光推進課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	新市まちづくり計画	関連事務事業		
背景や経緯等	旧十和田市・旧十和田市が合併した際に策定した新市まちづくり計画に基づき、十和田湖休屋地区に観光拠点施設を整備する。			
事務事業の目的	新たな観光拠点として旧遊覧船ターミナルを取得、改修し、観光案内業務及び高村光太郎などの展示コーナーを整備することにより、観光客の滞在時間を増やし、地域経済の活性化を図る。			
実施状況	国(環境省)、青森県、十和田市、十和田湖国立公園協会、休屋地区会、学識経験者を構成員とする「十和田湖活性化対策会議」で協議するとともに、十和田観光拠点施設として旧遊覧船ターミナルを取得した。			

## 【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	4	12	40
	人件費(千円)	144	432	1,440
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			2
	活動日数(日)			60
	人件費(千円)			444

## 【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	0	70	56,895
うち一般財源		70	46,111
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			10,784

## 【指標】

活動指標	活動指標名①	十和田湖活性化対策会議での観光拠点施設の検討			
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
		回		8	4
	活動指標名②				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
成果指標	成果指標名①	実施計画			
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度
		式	目標値	1	
			実績値	1	
			達成度(%)	100%	
	成果指標名②	観光拠点施設の開設			
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度
		式	目標値		1
		実績値		1	
		達成度(%)		100%	

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	61
計画No	118

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">十和田湖の観光客ニーズに応えるためのものであり、観光拠点としての要望が高い。また、公共性という観点から休憩機能の充実を図るものである。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	十和田湖の観光客ニーズに応えるためのものであり、観光拠点としての要望が高い。また、公共性という観点から休憩機能の充実を図るものである。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
十和田湖の観光客ニーズに応えるためのものであり、観光拠点としての要望が高い。また、公共性という観点から休憩機能の充実を図るものである。										
② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計画通りの完成を目指しており、順調に推移している。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	計画通りの完成を目指しており、順調に推移している。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	計画通りの完成を目指しており、順調に推移している。									
④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">運営について、期間雇用職員での運営を予定しており、コスト削減を行っている。今後は、指定管理導入を視野に入れ、運営コストの把握に努める。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	2 / 6	運営について、期間雇用職員での運営を予定しており、コスト削減を行っている。今後は、指定管理導入を視野に入れ、運営コストの把握に努める。	
	コスト削減の余地	2 / 6								
	運営について、期間雇用職員での運営を予定しており、コスト削減を行っている。今後は、指定管理導入を視野に入れ、運営コストの把握に努める。									
⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	C	0							
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">一般市民の利用もあることから、受益の偏りはない。また、受益者負担の原則に基づき、会議室の施設使用料の徴収を想定している。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	一般市民の利用もあることから、受益の偏りはない。また、受益者負担の原則に基づき、会議室の施設使用料の徴収を想定している。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
一般市民の利用もあることから、受益の偏りはない。また、受益者負担の原則に基づき、会議室の施設使用料の徴収を想定している。										
⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
<b>現在の適性</b>					<b>18 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>2 / 20</b>			

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
十和田市の重要な課題である十和田湖の活性化に結びつくものであり、整備に向け準備が必要となっている。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
旧遊覧船ターミナルを取得したことから、改修工事を実施し、秋の観光シーズンに合わせたオープンを目指す。